

籾すり機を使ったイネソフトグレインサイレージ用籾の加工方法

福島県農業総合センター 企画経営部経営・農作業科

1 部門名

飼料作物 - 飼料作物 - 作業技術、収穫・乾燥・調製、サイレージ

2 担当者

朽木靖之・松葉隆幸・高橋誠

3 要旨

イネソフトグレインサイレージ(イネSGS)を牛に給与する際、消化率を向上させるため、籾を破碎もしくは損傷を与える必要がある。米の乾燥調製施設で使われる調製機(籾すり機)を利用することで、従来の処理法より損傷粒割合が向上した。

- (1) 水分率の高い黄熟期の稲(ふくひびき)を自脱型コンバインにて収穫し、得られた籾をそのまま用いた。
- (2) 使用機種はインペラ式の籾すり機で、損傷を与えるために脱ぶ用変速レバーを、最も脱ぶ率の高くなる位置に調整した。
- (3) 損傷粒割合は67%で、従来のガーデンシュレッダ1回処理法に比べ高かった。機械内部のライナーを凹凸の付いた鉄製に変更することにより、損傷粒割合が79%と更に向上した。



図1 籾すり機での加工状況

表1 作業性能

処理法	籾すり機 標準	籾すり機 試作	ガーデンシュ レッダ(1回通 過)	ガーデンシュ レッダ(2回通 過)
損傷粒 割合(%)	67	79	42~55	65~72
処理量 (kg/s)	0.5	0.5	-	0.22

福島県畜産試験場研究報告より抜粋

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成16年度普及に移しうる成果「イネソフトグレインサイレージの収穫調製技術」
- (2) 福島県畜産試験場研究報告第13号(イネソフトグレインサイレージの収穫調製技術、2005)
- (3) 平成20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008)